

2025年度  
事業計画書

事業名

盲導犬事業 〈公1〉

社会適応推進事業 〈公2〉

管理部門 〈法人会計〉

自：2025年 4月 1日

至：2026年 3月31日

公益財団法人北海道盲導犬協会

札幌市南区南30条西8丁目1番1号

## 盲導犬事業 〈公益目的事業1〉

(2025年4月1日 ～ 2026年3月31日)

### ■ 盲導犬の育成・貸与事業

#### 1. 盲導犬訓練・貸与に関すること

- 1) 視覚障がい者への盲導犬貸与目標を11頭とする。
- 2) 2026年度の盲導犬訓練基準認定目標を11頭とする。1次適性評価合致は30頭前後とし、合致犬に対して2次適性評価を実施する。今年度も20頭前後の訓練犬を決定して効率よく訓練を行う。
- 3) 盲導犬ユーザーのサポート体制を安心・安全の観点から強化する。
  - ・盲導犬のハーネスの改良、犬具類の見直しを行う。
  - ・盲導犬の日常管理意識の強化を図る。
- 4) 訓練犬の日常管理を充実させる。
  - ・手入れ、運動、シャンプーなど管理面の充実を図り、ハズバンドアリートレーニング、トイレトレーニングを早期から導入して扱いやすい犬を目指す。
- 5) 訓練士・指導員の養成を行う。

#### 2. 繁殖に関すること

- 1) 2026年度に15頭前後の訓練犬が確保できるように出産頭数60～75頭（出産件数15腹前後）を計画する。
- 2) 繁殖犬として新たに5～8頭（ラブラドル5～6頭、ゴールデン2頭）を確保して、繁殖犬の質の維持・向上に努める。

- 3) アジアガイドドッグスブリーディングネットワーク(略称:AGBN)のGD-Bartテストに取組み、交配計画の情報としていけるようデータ整理をする。
- 4) 繁殖犬飼育委託ボランティアに向けた年間繁殖計画の説明会を実施する。
- 5) 遺伝子病検査について検査体制を構築する。
- 6) 出産や繁殖の時期を分散させるシステムを試みる。
- 7) IWDR(International Working Dog Registry)に加入して、データベースを整理する。
- 8) 繁殖担当者の養成を行う。

### **3. パピーウォーキングに関すること**

- 1) 2026年度 訓練犬・繁殖犬適性評価対象となる子犬を50～55頭委託する。
- 2) パピーウォーカーを対象とした飼育講習会を実施する。
  - ・委託終了までの間に、講習会を5回、および家庭訪問を3～4回実施してパピーの飼育指導にあたる。
- 3) トイレトレーニングの強化をはかる。

### **4. ケネル・老犬ホームに関すること**

- 1) 老犬飼育委託家庭への定期訪問を行い、高齢犬や病犬の飼育環境を整えるアドバイスをを行う。また、老犬来所の機会に犬の健康状態を把握し個々に合ったケアの充実を図る。
- 2) 引退犬飼育ボランティアに対し老犬講習会を開催する。
- 3) 老犬担当者の養成を行う。

## 5. 研修に関すること

- 1) 外部研修の活用により、職員のスキルアップを図る。
  - ・全国盲導犬施設連合会加盟施設職員相互研修会の参加
  - ・視覚障害リハビリテーション基礎講習会の受講
  - ・国際盲導犬連盟2025カンファレンスの参加

## 6. 犬具飼料等の頒布に関すること

- 1) 盲導犬ユーザー、飼育ボランティアの負担を軽減するため犬具・飼料を低価格で仕入れ頒布する。
- 2) 盲導犬ユーザー、視覚障がい者に歩行補助具・日常生活用具の情報提供と頒布により日常生活を支援する。

## ■ 普及啓発事業

### 1. 盲導犬の普及啓発に関すること

- 1) 視覚障害者向け盲導犬宿泊体験会1回、個別体験会8名を実施する。
- 2) 行政機関、盲学校、視覚障がい者団体等と連携した盲導犬歩行体験を実施する。
  - ①行政機関2件
  - ②道内外盲学校2校
  - ③各地域の当事者団体の総会、行事等3件
- 3) 施設や団体に対し盲導犬受入れの理解を図ることを目的とした講習会を実施する。
  - ・視覚障がい疑似体験、介助方法実習を取り入れた盲導犬受け入れ・接客セミナーを市内外で2回実施する。
  - ・北海道運輸局が主催するバリアフリー教室への協力2件
- 4) 教育機関、福祉事業者、自治体等が実施する盲導犬講習会への講師派遣を

通じて、盲導犬と視覚障がいについての情報・知識を提供する。

- 5) 関係団体、商業施設、支援企業等の協力を得て盲導犬啓発キャンペーン活動を実施する。
- 6) 個人を対象とした施設見学会を年9回開催するほか団体見学の受け入れを積極的に行い、盲導犬育成事業への理解を促進する。
- 7) 協力者を対象として、2025ガイドドッグオープンデーを4月20日に開催する。
- 8) マスメディアを活用した情報発信に取り組む。
- 9) 盲導犬の普及啓発目的のオリジナル商品を製作・頒布して、盲導犬育成事業に対する理解と募金への協力に繋げる。
  - ・新商品3点の企画制作、販売の開始
- 10) 広報誌「北の盲導犬だより ミーナ」を年2回各18000部発行する。

## ■ 調査研究事業

### 1. 調査・研究に関すること

- 1) A G B Nが取り組む期待育種価算出プログラムの精度向上に協力する。
- 2) 視覚障がい者の行動範囲の拡大につなげるため、歩行支援機器について、最新の情報を収集し、実際に使用方法の検証を行う。

## ■ その他事業

### 1. 財源確保に関すること

- 1) サポート会員の新規会員目標は150名とする。また、サポート会員に対して計画的な継続支援依頼を行うとともに、法人会員、個人マンスリー会員の拡大に向けた取り組みを行う。

【入金件数】個人会員2,000件 法人会員60件

2) 募金箱設置店への募金訪問回収と送金依頼を計画的に実施し財源確保を行う。また、新規設置目標は200件とする。その他、既存設置店の設置状況を随時確認し、適切な募金箱管理を行う。

**【入金件数】**

札幌市内訪問回収：2,800件 札幌市除く道内及び道外送金依頼:2,000件

3) 街頭等での募金活動を実施し、財源の確保、盲導犬の啓発、協力者の拡大を図る。

活動予定場所：IKEUCHI GATE、どさんこプラザ札幌店、札幌駅前通地下歩行空間

・街頭募金活動は、IKEUCHI GATE12回、どさんこプラザ2回を予定する。

4) 継続支援ツールとして年表カレンダーの作成・協賛企業の募集・配布を行い、継続率向上に繋げる。

**【制作枚数】** 5,000枚 **【募集協賛企業】** 7社

5) 遺贈寄付制度を促進する為、関係機関への働きかけを行い、遺贈寄付の周知啓発を図る。

6) 寄付型クラウドファンディング、ネット募金、QRコード決済等を活用した新たなオンライン募金方法を検討し導入する。

7) 支援者情報の一元管理により事務作業の効率化を図る為、新たな支援者管理システムを導入する。

## **2. 関連団体との協力連携に関すること**

社会福祉法人日本盲人社会福祉施設協議会、認定NPO法人全国盲導犬施設連合会、北海道盲導犬ユーザーの会、その他各地域にある当協会盲導犬使用者の会の各事業に協力する。

## 社会適応推進事業 〈公益目的事業2〉

(2025年4月1日 ～ 2026年3月31日)

### 1. 生活訓練の実施に関すること

1) 短期入所訓練を実施する。実施回数及び指導数は、10回、15～20名とする。

また、新規訓練希望者は5名を目標とする。

開催日程予定

第1回 3/31～ 4/11、第2回 5/12～ 5/30、第3回 6/ 9～ 6/27

第4回 7/ 7～ 7/25、第5回 8/18～ 8/29、第6回 9/15～ 9/26

第7回 10/13～10/24、第8回 11/10～11/21、第9回 12/ 1～12/12

第10回 1/12～1/23

2) 通所及び訪問による指導を行う。指導数は月5ケースとする。

※通所及び訪問による指導ケース数は、各受講者の訓練期間により変動するため、月単位で同時に受け入れ可能な訓練ケース数を示した。

3) ケース会議を実施し、訓練生の訓練達成度の確認及び評価と今後の計画を決定する。

入所訓練 各訓練終了後

訪問・通所訓練 3ヶ月毎

### 2. 視覚障害リハビリテーションの普及啓発に関すること

1) 当協会の盲導犬事業、生活訓練事業を啓発するために道内で開催する相談会を、当事者団体等と繋がりのない方の参加促進や来場者の満足度の向上を目指し、さらに充実させる。

- ・マスコミの活用等による告知範囲の拡大を図る。
- ・用具紹介の内容充実のため、他団体への協力依頼を行う。
- ・地域との繋がりを深めるため、開催予定の地域を中心に役所及び関連団体を直接訪問し、啓発活動を実施する。

2) 道内の視覚障がい者や関係者からの個別相談に積極的に対応することで、当協会の盲導犬事業及び生活訓練事業の利用者の拡大に繋げる。

3) 盲導犬使用希望者、生活訓練受講希望者を顕在化するため、ロービジョンケアの集まりや視覚障がい者団体等の行事に参加し、盲導犬・生活訓練に関する情報提供を行う。また、団体等の要請に応じて行事の開催・運営に協力する。

(参考)

○「ロービジョンケアの集まり」とは、視覚障がい当事者とその家族、歩行訓練士、視能訓練士などの専門職が自由に相談や意見交換を行う場で、札幌、旭川、帯広の3ヵ所で行われている。受障後間もない方の参加もありピアカウンセリングの場としての役割もある。

○本項での「視覚障がい者団体等」とは、札幌市視覚障害者福祉協会、北海道視覚障害者福祉連合会といった各地の当事者団体や札幌市視聴覚障がい者情報センター、視覚支援学校といった関係機関を指す。

4) 「第4回ロービジョンケア講習会」を北海道眼科医会と共同で開催(2025年5月10日予定)し、道内の視覚障がい当事者及び医療・福祉・教育等の関係者に視覚障害リハビリテーションを普及啓発する。

5) 道内の医療機関を対象とした日常生活用具展示会及び相談会を継続して実施し、視覚障害リハビリテーションの普及啓発に取り組む。



- 6) 視覚障がい者の外出を支援し、地域との繋がりを深めるために、相談支援事業所や家族、同行援護従事者及び移動支援従事者等、視覚障がい当事者を地域で支援する方に対し、各種研修や情報提供等を通じてサポートを行う。
- 7) 生活訓練受講者及び相談利用者へ、生活訓練の再受講のきっかけをつくるため、協会行事や訓練、日常生活用具等の情報提供を様々な方法を通じて実施する。また、協会利用者のデータベース化を進め、告知の効率化を図る。
- ・協会YouTubeでの生活訓練紹介動画等の公開。
  - ・協会Xでの情報提供。
  - ・郵送での盲導犬個別体験会の告知等の実施。
- 8) 相談会や医療機関向け展示会及び相談対応などでの情報提供の質を向上させるために、ICT機器を中心に用具の充実を図る。

## 管理部門 <法人会計>

(2025年4月1日 ~ 2026年3月31日)

1. 理事会・評議員会・三役会により、効果的に法人業務の意思決定等を行う。
  - 1) 理事会は、年3回を予定する。
  - 2) 評議員会は、年2回を予定する。
  - 3) 三役会、経営会議は毎月開催する。
  
2. 施設整備を段階的に進める。
  - 1) 訓練棟及び本棟の冷房設備用太陽光発電システム設置工事
  - 2) 訓練棟及び本棟の照明一部の更新工事
  - 3) 本棟玄関風除室の自動ドア更新工事
  - 4) 本棟の給水配管更新工事
  - 5) 盲導犬訓練用車両の更新
  
3. 職員の就業環境を向上させるため、諸規程の改正を進める。
  
4. 持続的な成長と発展を遂げるための指針を明確にするため、中長期計画の策定を進める。
  
5. 自然災害や事故など緊急事態発生時においても、重要な業務を継続できる体制を整えるため、BCP（事業継続計画）の策定を進める。